

第187号

平成22年1月10日

# 病 院 だ よ り

新年を迎えて

村井 勝

膝関節の疾患と治療

野村 栄貴

国際親善総合病院

〒245-0006 横浜市泉区西が岡 1-28-1  
TEL 045(813)0221 (代表)  
FAX 045(813)7419 (庶務課)

URL <http://shinzen.jp>

国際親善総合病院看護部  
モバイルサイト



### 新年を迎えて



新年明けましておめでとうございます。

当院は国際親善病院としての開設は昭和21年ですが、その前身は横浜関内(外人居留地)にできた1863年の横浜パブリックホスピタルあるいはその後身である1867年の横浜ゼネラルホスピタルとされております。いづれにしても長い歴史を有する本院は平成2年西が岡へ新築移転し、本年で20周年を迎えます。あらためて、これまでに地域医療機関さらには患者様からお寄せいただきましたご支援とご指導を深く感謝申し上げます。当初は斬新な建物と機能的にも優れた病院として皆様に親しまれてまいりましたが、ここ数年の医療環境の変化も手伝い建物の狭隘化、設備の老朽化がみられています。数年前より地域中核的急性期病院としての役割維持・向上のために積極的に病院のソフト、ハード両面にわたる再整備拡充計画を開始しております。診療を継続しながらの再整備

ゆえに諸種の制約を伴い、その計画実施には時間を要しております。これまでにオーダリングシステムの入れ替えとその拡充を継続的に行うとともに昨年度からはPACSシステムを導入しレントゲン写真をフィルムレスとし、マルチスライスCT装置を更新しました。手術室の増室とともに中央材料室の大規模改修を終了し、今年度は血液透析室の設置工事を予定します。また在院日数の短縮に伴い、外来における抗がん化学療法室の拡充など看護を含めた外来機能の再検討を行ってゆきます。6人床病室の4床室への変更をはじめとする療養環境の改善計画も推進いたします。これらハード面の整備と看護必要度に応じた看護の充実を旨とし、一時的な病棟・病床の削減も覚悟しております。今後も続く再整備拡充計画はあくまでも当院が皆様から信頼される地域中核病院としての役割をこれまで以上に発揮できることを目指しております。

医療を含めた社会情勢はまことに厳しく、まさに荒波が押し寄せているともいえます。この厳しい現状を職員全員で打破し、良質な医療、親切な医療、そして信頼される医療の実施という病院の理念推進に努力することをあらためて年頭にお誓いいたします。

院長 村井 勝

## あけましておめでとうございます

～2010年の抱負～

**常**に患者さんの立場に立ち、安心して医療を受けられるよう環境を整備し、医療の質を高めて患者さんの信頼を得るよう努力します。

副院長 多和田 哲雄

**病**気で悩んでいる人の立場に立って、自らの病院における医療の質を評価し、質の維持・向上を目指します。

副院長 飯田 秀夫

**診**療部も一丸となり、厳しい医療事情に立ち向かっていきたいと思っております。

診療部長 岡崎 博

**社**会の環境、皆様のニーズの変化に即応し、サービスの向上に努めます。皆様方のご健勝を心より祈念申し上げます

事務部長 武井 主税

**“可視化”**  
信頼される医療の提供には、変化を実現させる努力と成果を見せていくことが大切と心にとめております。今年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

看護部長 松田 慶子

## 健康懇話会

# 膝関節の疾患と治療

膝関節の疾患には極めて多くの疾患があり、近年、CT・MRIや関節鏡の発達により正確な診断が行われるようになりました。治療法に関しても最近10年の間に驚くほどの進歩が見られていますので、今回最新の手術法についてご紹介します。

膝関節でもっとも多いのが、変形性膝関節症です。軽症であればヒアルロン酸やリハビリなどの保存的治療が有効ですが、中等症以上ではなかなか改善しなくなります。中等症から高度になった変形では高位脛骨骨切り術、人工膝関節手術が適応になります。近年人工関節の曲がり度は平均120～130度で、階段も楽に上り下りできるまでになり、入院も2～3週間で済みます。さらに従来の半分の片側人工膝関節が広く行われるようになり、正座近くまで膝が曲がるようになっております。入院も1～2週間で済むようになりました。人工関節は20年以上持つまでになり、O脚になった方は早めに手術をお勧めします。

変形性膝関節症と間違われやすいのが骨壊死です。これは骨の一部の血行が途絶えるために骨が壊れてくる病気で、まだ正確な原因は不明です。中年の女性に好発します。この疾患はまずは正確な診断が重要となります。初期のステージでは保存的治療で改善する確率が高いのですが、ステージが進んだり、壊死の範囲が大きいときは進行していきます。進行する場合は手術が必要になります。

スポーツでの損傷が多いのが、半月板損傷と前十字靭帯損傷です。半月板損傷は半月板本体での断裂は部分切除術、辺縁部での断裂は若年者であれば縫合術が適応になります。子供で多いのが外側円板状半月で10歳代で多く発生します。小学生の頃に成長痛で診断される場合もあります。前十字靭帯損傷に対する靭帯再建術は近年内視鏡手術で行えるようになり、且つ傷も4～5cmほどで済むようになりました。若年者では手術をしない場合将来変形性膝関節症を合併するため注意する必要があります。

整形外科部長 野村 栄貴

### ご案内

このテーマは

平成22年2月12日(金) 15:00～約1時間の健康懇話会にて

講演予定です。

(入場無料、予約不要、どなたでもご自由にご参加ください。)